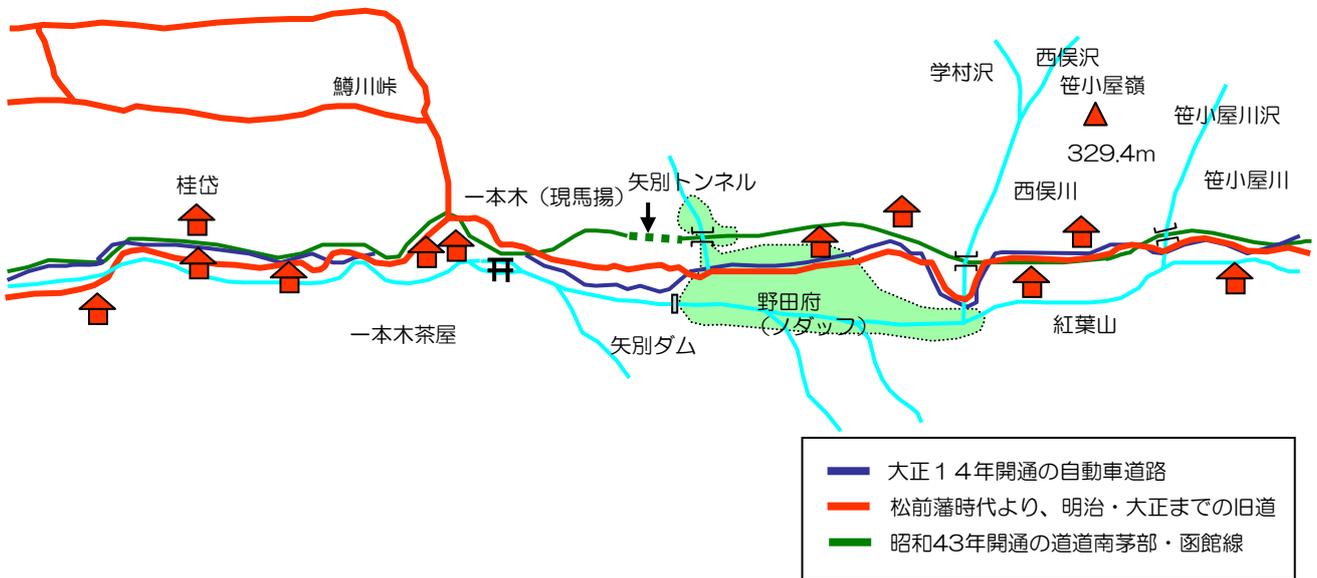
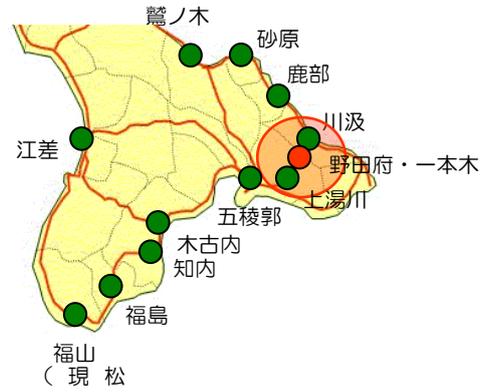


野田部〜一本木（現馬場）の道



野田府〜一本木の道

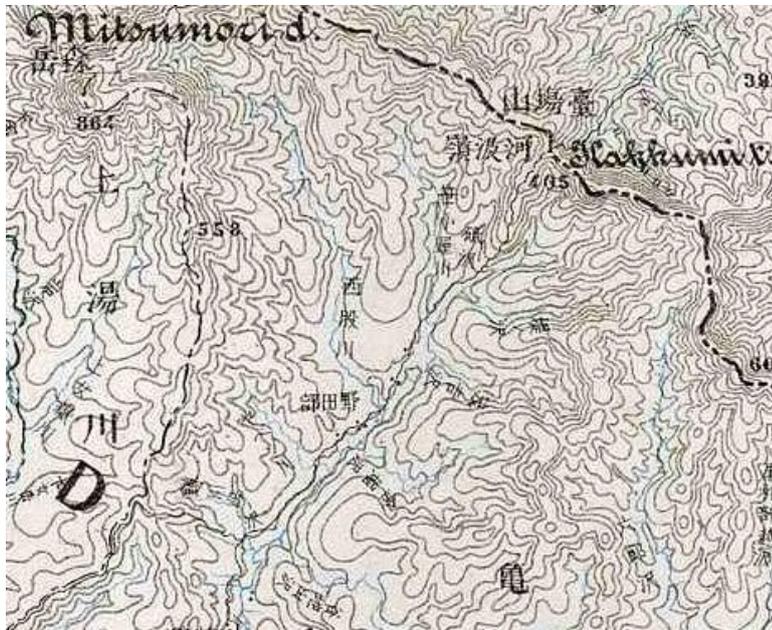


川汲峠を下り、NTTのゲートを通ると、函館方面に道道83号線を行き、矢別ダム湖付近に出るが、この辺り一帯を野田府（ノダップ）と呼んでいた。

「峠を下りたら無人の民家があったので兵を出し探索させたら臼砲2門と弾薬数荷が隠されているのが発見された。」と星日記にあるが、当時の古い絵によれば、野田府には数件の民家が確認される。現在も当時からののか代々続いている家がある。

旧道は現在の矢別ダムが出来た際に、ダム湖の下になってしまった。又ダムから一本木（現馬場）方向の旧道も一部しか確認出来ない状況だ。

大正道路の一部は現在も確認ができる。川治いの道は所によって、断崖絶壁になっていて旅人日記の日記からもその状況を知る事が出来る。



明治初期の野田府～一本木道路



一本木には大正道路の橋の基礎石が残る

一本木（現馬場）には当時茶屋が2軒あった。今は茶屋はやっていないが、3代目の下田さんの家がある。もう一軒は下田さんの別家で伊藤さんであったが、今は家も無くなっている。家の向い側のガードレールを越えて中に入れば大正道路の橋の跡と旧道が残っている。



古図には民家が見られる

野田部の旧道の絵である。右側の川汲側のそばに道が付いていた。現在も家が数軒あるが、その先祖の家がこの辺りかどうかは不明だ。

大正道路が出来た際、この道を函館の藤野自動車が運行していたが、藤野の家の子孫の方は、今でもこの辺りには住んでいる(下田さん談)



一本木茶屋の古図

図には野田部一軒茶屋図と書かれている。鱒川峠からの下り道を書いているのだろうか？中央に道が書かれている。

この道が鱒川峠に至る道なのか。



先祖は茶屋だと言うご夫婦の家